

# ミャンマー、中国で相次ぎ大規模災害

支援チーム派遣し  
ミャンマーで緊急物資配給へ

5月2日から3日にかけて、ミャンマー（ビルマ）の最大都市ヤンゴン（ラঙ্গ়েন）や沿岸部が、大型のサイクロンの直撃を受け、大きな被害が出ました。報道によると、死者・行方不明者は13万人にも達するとみられ、多くの住民が家を失い、食糧不足に見舞われている模様です。

PWJでは支援活動に向けた現地調査のため、海外事業部チーフの山本理夏を10日に現地に派遣。11日からヤンゴンで調査を行い、緊急の調理用品や衛生用品、補助食品、毛布・衣類などを被災者に配布する方針を決めました。5月末には、第2陣スタッフを現地に派遣、本格的な被災者支援活動を開始することになりました。

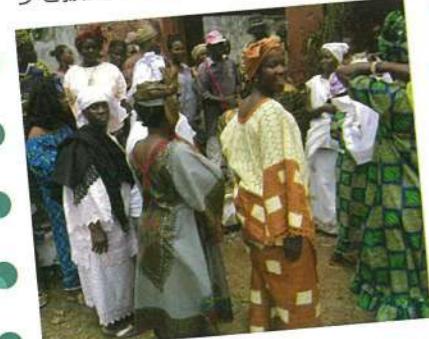
一方、中国・四川省では12日、M8.0の巨大地震が発生しました。死者は5万人、被災者は1000万人を越えるとされています。PWJは事態を注視し続けています。

PWJではミャンマー支援のため緊急募金を受け付けています。郵便振替の通信欄やオンライン寄付のメッセージに「ミャンマー」とご記入ください。口座番号やURLは3ページをご覧下さい。

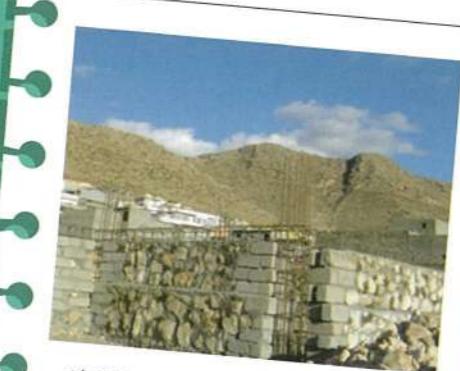
支援地レポート

## リベリア

ロファ州ゾルゾル郡でPWJが進めてきた女性活動センターのホテル改修工事が終了し、4月に引渡式が行われました。式にはエレン・ジョンソン・サーリーフ大統領（女性）も参列して「日本の友人の手助けに感謝します」とPWJへの謝辞を述べ、女性グループは、カラフルな民族衣装で、喜びの踊りを披露してくれました。



## イラク



## 国内災害

- 海外での実績を生かし、地震をはじめとする日本国内での大規模災害時に連携して動くことを目的に、PWJなど複数のNGOが「災害即応パートナーズ」を発足させ、記者会見を開きました。最大1万人の被災者を対象とした避難所運営支援などの計画を立てるとともに、支援物資の備蓄や、共同ロジスティクス体制の整備などに取り組みます。



発行／特定非営利活動法人ピース ウィンズ・ジャパン ☎ 151-0073 東京都渋谷区笹塚3-2-15 第二ベルプラザ

Tel 03-5304-7490 Fax 03-5304-7342 郵便振替 00160-3-17964

ピース ウィンズ・ニュース

vol.111 2008年6月号

peace winds  
JAPAN

支援のプロを、  
世界の現場へ



# 井戸部隊、北へ東へ

## —活動広がるスーダン南部事業—

## 完成を待ち村人は残った

スーダン南部、ジョングレイ州。ウガンダから運び入れた大型掘削機が土ぼこりを巻き上げる。地下 70 メートルを流れる水脈めがけ、パイプが次々と打ち込まれていく。ウガンダからのエンジニアたちの作業を、ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)スタッフが見守る。雨期となり道路がぬかるみと化せば、移動はままならず、計画した井戸の完成は翌年の乾期まで持ち越しだ。掘つては移動し、翌日は別の村で工事。北海道とほぼ同じ広さの州内を、北へ、東へ、部隊は日々、動く。

州都ボーから北へ約 300 キロ。アユッド郡では 18 万の人

に対して、使用可能な井戸は 20 本に満たない。飲み水の入手が困難な状況に、難民の帰還はなかなか進まない。掘削に先立つて訪れた PWJ スタッフに村人が話しかける。

「雨期に穴を掘って水を貯め、乾期に水が尽すれば、村人はナル川のそばまで移住する。それがここ的生活だ」

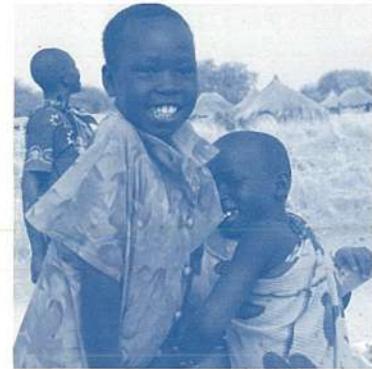
しかし今年、住民たちは村を離れなかつた。「PWJ が井戸を  
くると聞いたから、待つていろんだ」

部隊はボーからの遠征体制。テントホテルに泊まりながら1週間交代で遠隔地での活動を続ける。重機が大きく揺れる道に、折、野生動物の気配がする。この道を、難民キャンプでの生活終えた人びとが故郷に帰還するために通る日も遠くない。

## 事業開始から約80本の井戸を建設

20年以上続いた南北内戦が終結して難民の帰還が動き出したスーダン南部で、PWJが支援活動を始めたのは2006年8月。何よりもまず井戸建設に重点を置きました。

当初は道路状況が非常に悪かったため、2006年度は州都ボーセンの中心部とその周辺に18本の井戸を建設。2007年度前半



は、ボーセン北部と東トゥッヂ郡、ドゥック郡に活動を広げ、草原地帯の村や学校に20本を建設、2007年度後半はボーセン東部から南部にかけての全域を網羅する形で、さらに21本の井戸を完成させました。そして2008年度に入ると、ボーセンからの日帰りが困難な北部アユド郡を中心に18本の井戸を掘削。事業開始以来、建設した井戸は77本にも達し、NGOの井戸事業としては現地で最大規模となりました。井戸とともにトイレ12基の建設も進めました。



## 住民や修理チームを対象に技術指導

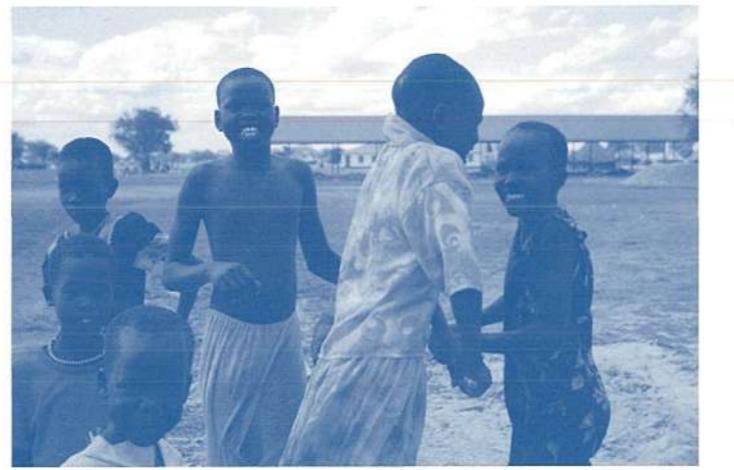
PWJのスーダン支援の特徴が、井戸を建設したコミュニティに対するきめ細かなフォロー。コミュニティとは、井戸管理委員会を発足させることを条件に井戸建設を進め、委員会には村長や長老だけでなく女性や学校長も加わってもらいます。実際に水くみを行うことの多い女性の関与は非常に重要です。井戸が完成し、コミュニティに引き渡すときには、委員会や住民が参加するワークショップ（研修）を必ず開催。井戸の維持管理の方法や、井戸のまわりが家畜などによって汚されないようにするためのフェンスの必要性、保健衛生に関する知識を理解してもらいます。また、修理に使うスパンナやハンマーなども提供しています。

一方、ジョングレイ州では地域ごとに井戸の修理を行うチームが行政によって組織されています。しかし、技術や部品、資機材が不十分なうえ、給与の支払いが滞ることもあることがPWJの調査で判明しました。このためPWJでは、2007年11月から、地元の人たちが井戸の修理を担うことを目指して、井戸管理委員会や修理チームを対象とした実践的な研修を行い、対応能力の向上を図っています。



## 小学校2校の改修も進行

水とともに難民に帰還をためらわせる大きな要因となっているのが、教育と医療です。どの村でも「必要なものは？」と聞くと、「井戸、学校、病院」という答えが返ってきます。帰還を促すためにも教育環境の整備が急がれるなか、PWJは2008年2月、東トゥイッチ郡とドゥック郡の2つの小学校の改修に着手しました。どちらの校舎も長い内戦を経て壁が失われ、改修というよりは新築に近い状況。帰還民の増加とともに生徒数も大きく増えています。校舎は6月にも完成予定で、関係者の期待も高まっています。



## 2007年までに190万人が帰還

20年以上も続いた南北スーダンの内戦は和平合意が成立しましたが、西部ダルフールではいまだに緊迫した状況が続いています。距離があるため、南部ではダルフール問題の直接の影響は限られていますが、南部でも、道路の封鎖や安全レベルの悪化があると、PWJスタッフの支援地への移動が妨げられ、完成を急ぐ建設事業などに支障が出かねません。

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）などによると、内戦のため、難民となった約55万人と、国内で避難していた約400万人のうち、2007年末までに190万人が帰還を果たしました（出典：UNMIS RRR 2005-2007）。

## 住民・スタッフの可能性を実感した7ヶ月

PWJスーダン ジュバ駐在 高橋裕子

2007年11月から南部スーダンの中心都市ジュバに駐在しています。赴任直後、アフリカと一口に言っても、国によって地域によって状況がまるで違うことを実感しました。南スーダン発展の遅さは隣のケニアやウガンダと比べると歴然、20年の内戦の傷を思い知らされました。にもかかわらず、ジュバの町では道路や空港、政府機関の建物など建設工事が急ピッチ。ボーセンの町も帰還民で活気づいています。

そして何より、スーダン人の能力や可能性、向上心に感銘を受けています。現地スタッフはことあるごとに、「ジュバは急速に発展しているんだ」と誇らしげに言います。右も左もわからない着任当初、物資の調達に難航するなか、スタッフからの情報で何度も助けられました。生活環境も復興状況もまだ厳しい場所ですが、人びとの持つ大きなエネルギーに南部スーダンの発展を確信する日々です。



## 支援者のみなさま、新しい統括責任者の明城徹也です

日ごろよりPWJの活動に多大なご支援を頂きまして、ありがとうございます。2008年4月1日付で統括責任者に就任しました明城徹也です。

2000年にPWJに入って以来、シエラレオネ事業の立ち上げや、アフガニスタン事業、パキスタン地震緊急支援事業、スーダン事業の現地責任者を経験してきました。また、東京事務局では2001年9月から約3年半、管理部チーフとして人事や財務・経理などを管轄しました。これらの経験を生かし、支援者のみなさま、代表理事となった大西健丞はじめ役員・スタッフとともに、努力してまいります。

統括責任者として、まず取り組みたいことは、組織力の強化です。これまでPWJは、とくに緊急人道支援の分野で迅速・適確な活動を実施することで声量を高め、支援者のみなさまの支持を得て、成長してきました。今後は組織体制の見直しも行いつつ、今まで以上に緊急時の対応力をつけていこうと思っています。

そんな折、ミャンマーでのサイクロン被害、中国の大地震と、巨大な自然災害が相次いで発生しました。この2つの災

害は被害が甚大であるにもかかわらず、政治要因などが重ってすぐに対応することが難しく、統括責任者としての仕事の難しさを痛感させられました。

しかし、支援を必要とする人びとを前に停滞は許されません。PWJがビジョン（目標）に掲げている、「人びとが紛争や貧困などの脅威にさらされることなく、希望に満ち、尊厳を持って生きる世界」をめざして進んでまいります。みなさまのご指導とご協力ををお願いいたします。

### 明城徹也の略歴

1970年、福井県生まれ。米ワシントン州立大学政治学部卒業後、総合建設会社に入社。1999年、アフリカ支援のNGOに参加、ケニア・ナイロビ事務所勤務を経て、2000年、PWJへ。



スーダンで子どもたちと

## PWJの活動にご協力ください

### <郵便振替>

口座番号：00160-3-179641

加入者名：ピース ウィンズ・ジャパン

※特定の地域・活動へのご支援の場合は、通信欄に明記してください。

### <銀行口座>

銀行名：三井住友銀行青山支店

口座番号：普通 1671932

口座名義：特定非営利活動法人ピース ウィンズ・ジャパン広報口

※PWJの活動全般へのご支援とさせていただきます。

### <ホームページ>

クレジットカード、イーバンク銀行を使ってご寄付いただけます。

<http://www.peace-winds.org/>

ピースウィンズ 検索

4月1日から支援者サービス担当になりましたPWJ国内事業部の三澤です。2002年にPWJに入って以来、主に広報を担当していましたが、今後はみなさまの窓口も務めます。どうぞよろしくお願いいたします。

寄付に添えられた「ささやかですが…」「自分は現場に行けないので…」というメッセージに触れたたび、PWJの活動が支援者お一人お一人の善意の積み重ねによって支えられていることの重みを実感しています。至らない点もあるかと思いますが、ご不明の点や疑問などありましたら、何なりとご一報ください。

## 支援者サービスの窓

メディア掲載報告

「国際開発ジャーナル」2008年4月号の「私の現場主義」で、スーダンに駐在して活動を続けるPWJ西野ゆかりの記事「ラッキーの種をスーダンに」が掲載されました。



## チャリティ参加でグアム旅行のチャンス

アフリカをはじめ世界各地で難民や被災者の支援を続けるPWJは2008年、「アフリカから始めよう」を合言葉に、アフリカ支援キャンペーンを展開しています。

PWJを支援してくれているノースウエスト航空の協力で、対象期間中にPWJホームページからクレジットカードでご寄付をしてくださった方のうち、抽選でペア3組にグアム往復航空券をプレゼント。あなたもぜひ、このチャリティに参加してください。

詳しくは

<http://www.peace-winds.org/africa>